

2023年4月3日 長崎国際大学第24回入学式 学長式辞

この度は長崎国際大学ご入学おめでとうございます。

確かな春の匂いを感じ樹々の緑がまぶしい本日、4月3日、私ども長崎国際大学スタッフは、入学された学生諸君のこれから始まる数年間の学生生活が、充実した時間とならんことを願いつつ、心から歓迎いたします。

約3年前に突然のように起こった新型コロナウイルス感染症は世界を席卷し、我々は絶望の淵に佇みました。本学学生も例外なくその影響で様々な制約を受け、苦しい学生生活を強られることになりました。本学ではこのウイルス感染症と立ち向かうため、医学部を持たない大学としては我が国で初めて、PCRセンターと診療所を設立し、本学学生、教職員をこのウイルス感染症から守る活動を行って参りました。本学は学生生活に最も大事な安心・安全を提供する大学として注目されて参りました。

一方、いよいよこの5月からは新型コロナウイルス感染症もインフルエンザ感染症と同等の対応に格下げされ様々な規制も緩和されていくことが期待されています。学生諸君においては、規律を守りながら、生活に本来あるべき「密」の環境の中で、授業、部活動、アルバイトなどを通して心置きなく新しい経験を満喫して欲しいと願っております。

本学は創立23年の若々しい大学であります。「若いという字は苦しいという字に似ている」という言葉もありますが、そもそも若いということは素晴らしいことで、無限の可能性と輝かしい未来が開けております。

トーマス・エジソンは「新しい発見とは新しい風景を観ることではなく、新しい眼で風景を観ることである」と言っています。これから始まる新しい生活・環境は、ともするとありきたりな風景と思いがちですが、常に新しい眼を持ち、本学を取り巻く風景を新しい眼で発見をする力を養い成長して行って欲しい、と希っております。

北海道でロケット開発を行う、植松電機社長、植松努さんは、小さい頃から学校の勉強が嫌いな劣等性でしたが、将来、ロケットを飛ばしたいという夢を持った少年でした。祖母から本を読み考えることの大切さを教えられ、独学で勉強し、北見工業大学では宇宙工学、流体力学を学んだ後、起業しました。成功と失敗を繰り返しながら、ついに自前でロケットを飛ばす会社に発展させました。今では研究者、企業の方々が集い、年に一万人もの修学旅行生が見学に訪れる注目の会社になっています。支えになったのは、母から教えられた、「思いは招く」、つまり夢を持ち、それを思い続けて行動すると実現する、という言葉でした。

激動する社会の中で、世界情勢も様々な価値観も今まで以上のスピードで変

化して参ります。どうか入学した今日、この日の感動と夢を忘れず、良い本を読み、心揺さぶられる映画を観、終生の友を見つけ、素晴らしい教員とも交流し、考える力を養って行ってください。

令和5年4月3日 長崎国際大学学長 安東 由喜雄